

隠岐の島町

# 「生産者が主役」の農業に

## にひ、小松の両氏迎え、党を語る集い

隠岐の島町の日本共産党おき支部は13日、にひ



ひそうへい参院比例予定候補、『共産党入党宣言』などの著書で知られる小松泰信・岡山大学名誉教授を迎え、党を語るつどいを開きました。(写真) つどいは「農林水産業は島の宝」をテーマにした支部主催の小松氏の講演会(1面参照)の後に開催。第1次産業の多面的機能を紹介した小松氏の講演の感想などを交流し、農家の夫婦は「農業者も知らなかった」と驚きました。

別の参加者は住民が力を合わせて運営し、地元の農産物などを販売している「こぞつて市」にふれ、「出会いも楽しい。多面的機能は地域づくりにもつながるのでは」と話しました。「山を育てることが海をきれいにし、魚を育てる。山を育てることがいかに大事かをつくづく感じた」という声もありました。

JAしまね(農業協同組合)隠岐地区本部の佐々木賢治本部長は本土より2割ほど高い島の物価が第1次産業の経営に影響し、所得も減っている

# 高い物価・輸送費 支援を

## にひ、小松の両氏、農林漁業者と懇談

日本共産党の、にひそうへい参院比例予定候補は14日、農業問題に詳しい小松泰信・岡山大学名誉教授とともに隠岐の島町で農林漁業の各協同組合などを訪ね、懇談しました。

「高くて売れる先が遠くにあっても運べない(今岡昭参事)状況で、2017年施行の有人国境離島法による補助の拡充を求めました。JFしまね(漁業協同組合)西郷支所の野津竹浩支所長は20年度の漁獲量について「3、4年前と比べ、かなり落ち込んだ」と指摘。漁価の低迷に加え、コロナ禍でバイガイの出荷は半分近くに減っていると述べました。村上三三郎(みさろう)前町議、岩田剛東部地区委員長らが同行しました。

# ロシアのウクライナ侵略許さない

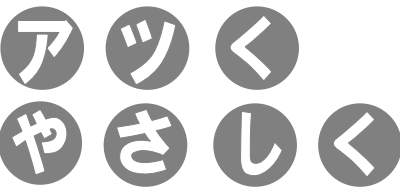
鳴り響く空襲警報に、爆撃の閃光と立ちのぼる黒煙。テレビやネット動画で映し出され、涙する幼い子どもやおばあ

さんらの姿に胸がしめつけられます。



院議員 前議

# 大平よしのぶ



ロシアによるウクライナ侵略。断固抗議し、ただちに攻撃をやめ軍隊を撤退させるよう求めます。プーチン大統領が「自衛措置だ」といつて戦争を開始したこと、そしてロシアが核大国であることを誇示し核兵器使用の威嚇まで行ったことに震えるほどの怒りを覚えました。ヒロシマで生きるものとしてこの言動は絶対に許せないし、世界の平和にとつて核兵器の廃絶がいよいよ緊急課題であることを痛感します。

街頭宣伝を行いました。廿日市では緊急にも関わらず、いてもたってもいられないと十数人がかけつけ一緒にスタンディング。大竹では私とあと2人の宣伝でしたが、スパー前では話し始めるやいなや、タクシー運転手がクラクションを鳴らし笑顔でガッツポーズ、バスを待つおばあさんが真剣にこちらを見つめて拍手する姿が。駅前でも下校中の女子高生たちが「そうだー!」と声援を寄せ、ピラを受け取る方も次々と。みんな心を痛め、「早くおさまれ」「なんとかせねば」と願っておられました。今こそプラカードを持って街頭に出て声をあげ、勇気を持って「戦争反対」と行動する

ロシアの市民を含め国際社会と連帯せねば。少し昔の事も思い出しました。2001年9月のアメリカ同時多発テロから2003年3月のイラク戦争開始に至るこの間20代前半の私は民青同盟で働いていました。毎日、仲間たちと不安や願いを夜遅くまで交流し「テロも戦争も許さない」と青年デモにとりくんだり、高校生たちと連日街にくり出しては2週間で4千筆の署名を集めたりもしました。間違いなくこの時期の活動が私のこの平和への願いや青年たちと連帯するとういう生き方の礎を築いてくれました。この原点を胸に今後またたかぬきます。(2月26日記)



# 東日本大震災から11年

## 党県議団、松江市議が「原発ゼロ」訴え

東日本大震災から11年の11日、松江市では、日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議、舟木健治、橋ふみ両市議が街頭演説し「島根原発再稼働は絶対に認めない。『原発ゼロ』実現に向け、国政・県政・市政でみなさんと力を合わせて奮闘していく」と決

意を表明しました。(写真) 島根原発から約9キロ、県庁や市役所に近い商店街で、尾村県議は「島根原発の直下には宍道断層があり、鳥取断層と合わせれば140キロの活断層が走っている。2号機再稼働を容認して事故が起きれば、その事故は人災と言わざるを得ない。危険な原発は絶対に動かしてはならない」と強調。大國県議は「東日本大震災の痛みの教訓を生かし、災害から国民の命と財産を守る政治に転換しよう」と呼びかけました。原発ゼロをめざす島根の会、さよなら島根原発ネットワークの2団体が共催で、JR松江駅前で集会を開きました。

沖縄と連帯する島根の会 講演と総会

4月16日(土)13:30~ 県民会館2F多目的ホール

講師 小泉親司さん(日本共産党中央委員会・基地対策責任者)

演題 ロシアのウクライナ侵略、南西諸島の軍備強化にふれて「敵基地攻撃」と憲法9条

資料代300円

講演終了後、「沖縄と連帯する島根の会」の定期総会を開催します。

県議定数削減するな 県議団 尾村県議討論

島根県議会は16日の本会議で、県議会議員の定数を現行37人から1人削減し、36人に改める議員提出議案について、日本共産党の尾村利成県議が反対討論に立ち「島根県が抱える課題は人口減少対策をはじめ、災害対策、医療福祉、産業、離島・中山間地域の諸課題など多岐に渡っている」と指摘。「県民の切実な願いを的確に掴み、県政の意思決定に反映させる議会機能をさらに充実させてこそ島根県政の発展につながる」と強調し「総定数は少なくとも現状を維持すべきであり、議員定数削減には反対」と主張しました。表決では、日本共産党以外の議員が定数削減に賛成しました。